



病院短信

精神保健指定医 高山 美登利

『認知症と向き合って』

認知症の方を診察するようになり四十年以上が経ちます。ごく珍しい疾患と捉えられていた認知症が今では国民病の一つに数えられるようになりまし...

『そんなことはない！』と事実をねじ曲げて主張する。でも、出来る部分もあるし、もともと他人の意見を聞かない人だからそのせいなのか...

さらに、認知症と診断はされても、「家族が「納得できない」「治るのには...」と病院を転々とするケースや、「認知症は治らない進行性の病気です」と言われ、困惑して呆然としてしまうことも良くあります。

最近の研究開発も急速に進んでおり、認知症の治療薬が出てくるのではないかと期待している一方、「認知症になっても暮らしやすい世の中を目指している」というのが目標となつて日々励んでいこうと思ひます。



介護だより

3病棟 介護主任 永井 優子

現在、日本の女性最高齢は116歳（明治33年生まれ）、男性最高齢は111歳（明治38年生まれ）だそうです。それにはまだまだ及びませんが、宮崎に主人の祖母がいます。大正5年生まれの101歳で、今は介護施設で元気に過ごしています。



暑い暑い...あづい~ ♪ 今年の夏も猛暑ね... ☹

ももだより

余りにも暑いから最近「何かをする」⇒「扇風機で涼む」が日課になっちゃったわ ♪ お散歩から戻ってきては涼んで... ♡ 患者さんと触れ合っては涼んで... ♪ 『もも！そこ邪魔だよ！』 ふ〜んだ ♪ ぞかないもんね〜 ♡ これでこの夏も乗り切れそうかわ ♪



事務屋の独り言

常務理事 事務局長 瓦井 洋

『終末期医療』

「スバゲッテイ症候群」。この言葉、ご存じでしょうか。病院や医療関係者の間でこの言葉が囁かれるようになったのはもうかなり前になります。人生の最後を迎える時、その時に行われる医療を終末期医療と言います。

さて実際に終末期として行われる医療にはどんなものがあるのでしょうか。典型的なものは点滴注射による水分や栄養分の補給だと言われています。でも終末期の点滴は血管が見つからず、針を何度も刺され青黒く変色した腕や足は見ただけで痛そうです。

二つの病院の運営に携わる私がこんなことを言うのも変な話ですが、どうも終末期医療になると医師や看護師の医療スタッフ、そしてご家族の「治療を尽くさなければ」という双方の心理的負担が大きくなり、何もせず看取るのは看取る側としては心が痛むので、せめて「点滴ぐらいは」となるのだそうです。

『延命治療は行わない』当院の理念は、終末期に必要な医療として「技術的に可能なことをやりつくす」のではなく、患者さんが穏やかに、そして安らかに最後の時を迎えられるよう、看護や介護を手厚く行うこと。そして最後までその人らしく人生を終える。そのことに医療スタッフとして手助けすること。これこそが本当の『生命の尊厳』だと思ふからなのです。



大衆演劇「舞踊ショー」



劇団双葉会の皆様とは、もう十年來のお付き合いとなります！患者さんは今年も熱心に鑑賞され、涙ぐむ方もいらっしゃいました。素晴らしいステージをありがとうございました。また来年も宜しくお願い致します♪



患者さんご家族の皆様、職員の短冊で笹の葉がしなっております♪願い事は叶いましたか？



～お誕生日会～



盆踊り



ボーリング



神経衰弱ゲーム

放射線科だより

放射線技師
木村 保弘

夏の暑さを感じる時期となりました。陽気の良い夏にあまり病気した記憶の無い私ですが、食べ過ぎでお腹を壊した事は覚えています。

日差しの強い夏は日焼け・脱水などで体力を奪われ、免疫力が低下する事があります。『免疫力が下がる』とは簡単に言えば病気に罹りやすくなった状態で、お腹を壊したり夏風邪になったりします。

夏の時期に流行するウイルス感染症を一般的に夏風邪と言ひ、咽頭炎・発熱・咳・腹痛・下痢などの症状が現れます。夏風邪ウイルスの代表格アデノウイルス・エンテロウイルスは高温・多湿の環境を好むので、梅雨明け～夏にかけて活動性が増していきます。特に幼児・老人・免疫力の低下した方が発症しやすくなります。

夏風邪に罹り症状が長期化・重症化すると、髄膜炎や心筋炎・肺炎などを合併してしまう事もあります。そうならないためにも、手洗い・うがい等のウイルス感染の予防に加え、十分な睡眠と栄養補給で免疫力をアップするなど、体のケアを心掛けましょう。



看護日誌

1病棟 看護師
竹内 宏美

暦の上では立秋ですが、まだまだ暑さが厳しいですね。夜も暑さが続いていて、室内においても熱中症になることがあると聞きます。室内での熱中症を予防するには、温度を28℃以下に、湿度を50～60%に抑える事を目標にすると良いそうです。ちなみに、夜間でも25℃以上の熱帯夜だと熱中症のリスクが高まります。

以前、テレビ番組の実験で、若い人と高齢者の体感温度には差があり、平均して5～6℃も違う、という結果を目にしたことがあります(もちろん個人差はありますが…)。体感温度では暑くないと感じていても、熱中症になる危険性は充分にあるため、室内温度や湿度の状況を常に把握しておく事が熱中症予防につながります。水分補給をこまめにして、身体に気を付けて残暑を元気に過ごしていきましょう。



スタッフ紹介

2病棟 介護福祉士
菊池 武

8月といえば皆さん何を思い浮かべますか？私は子供のころから夏休みが楽しみで仕方ありませんでした。特に学生時代などいろんな場所に旅行に行き、良い思い出を作ってきました。現在は結婚をして3年目ですが、まだ新婚旅行に行っていないので、今年の夏休みを利用してハワイに行く計画を立てています。妻と二人で良い思い出を…と考えています。



◇8月のお知らせ◇

- 誕生日会…14時30分～
 - 1病棟：4日(金)
 - 2病棟：5日(土)
 - 3病棟：3日(木)
 各病棟でそれぞれスイカ割り大会を実施予定！
- ミニ演奏会…14時00分～15時00分
 - 13日(日) 1・2病棟ダイルームにて
 - 1病棟に入院している患者さんのご家族様とご友人の3人組によるピアノ・クラリネット・琴の三重奏です☆
- 行事食
 - 14日(月)…おやつバイキング
 - 15日(火)…昼食 夏バテ防止メニュー

